

テーマ1： マネジメント・リーダー向け グループ研究

“変化が激しい時代に求められる経営管理について”

概要：

変化が激しい時代に求められる経営管理は、単に企業戦略を実行するだけでなく、目標の達成に向けて、どの戦略の施策が利いてどの戦略の施策が利いていないかを、経営層に気づかせる経営インフラの仕組みが求められています。

そのためには、当初の経営戦略の進捗度を常時モニタリングし、進捗が遅れているのであれば、確実な施策の実行を指示し、時には新たな施策を打ち出すような経営管理の仕組み（P D C A）が必要となります。

これまでの主張に沿って、B S C（バランスト・スコアカード）を活用し、経営戦略を反映した経営指標体系によって、企業活動を方向づけ、経営戦略を確実に実行する実践的な経営管理の仕組みについて研究します。

進め方（案）：

- 1回目：自己紹介、経営管理に関する共通認識（メンバー間の意識合わせ）<6月>
- 2回目：企業ミッション・ビジョンの明確化、対応した戦略の存在の確認<7月>
- 3回目：戦略の明確化とビジョン&戦略の浸透度調査<8月>
- 4回目：B S C（バランスト・スコアカード）と戦略マップの作成<9月>
- 5回目：事業&プロセスレベルのB S Cの設計（K P I、目標、施策など）<10月>
- 6回目：部門、チームレベルでの設計（K P I、目標、施策など）<11月>
- 7回目：全体整合性の確認とまとめ<12月>
- 8回目：最終報告書の作成 1<1月>
- 9回目：最終報告書の作成 2<2月>

募集対象者：

経営管理にご興味のあるマネジメント、リーダー層の方

以上

テーマ2： マネジメント・リーダー向け グループ研究

## 低炭素社会に向けてICTでできること

～ IT社会を環境で測る最新の取り組みと実践～

### 概要：

鳩山首相は国連演説で、2020年までに温室効果ガス削減25%（1990年比）が表明された、一方、改正省エネ法や東京都改正環境確保条例が2010年4月から施行された。既に、温室効果ガス(CO2)排出量削減は、企業や国民の社会的責任に対する意識向上の段階から、本格的な排出量削減義務化の段階に移り、具体的には単なる見える化から制度に伴う削減義務遂行の域に入った。

ITサービスを取り巻く環境も例外ではなく、IT社会に対する環境影響評価についてそれを取り巻く制度及び環境影響評価手法を含む技術動向を踏まえ、ケーススタディとして自らの提供商品に対しCO2量を算出する取組を行いその効果を評価する。

### 進め方（案）：

- 1回目：ICTと環境
- 2回目：ICTの環境影響評価（ライフサイクルアセスメント）と実践例
- 3回目：カーボンフットプリント（CFP）とは
- 4回目：研究方針検討（中間報告に向けて）
- 5回目：ケーススタディ1：商品におけるCFPルールの策定
- 6回目：ケーススタディ2：商品におけるCFP値算出
- 7回目：CFP算出における課題と対策
- 8回目：研究報告書作成評価

### 募集対象者：

ITに係る環境戦略策定/企画 関係者の方

以上

テーマ3： マネジメント・リーダー向け グループ研究

“ SaaS の利用をはじめよう ”

概要：

利用者にとって様々なメリットがある SaaS アプリケーションは、年間平均成長率 20%弱の勢いで急速に増加しています。多岐にわたる SaaS 型アプリケーションの導入による、コスト削減・企業戦略推進・CSR 効果、コア事業の利益拡大に向け導入効果を検討していく必要があります。

SaaS の導入には、他のシステムとの整合性・セキュリティの検討に加え、サービス利用方式、コスト・品質・スピード・メリット・デメリットといった側面からも最適な方法を検討していくことが必要です。

本研究では、実際に SaaS 利用の試行や、SaaS アプリケーションの提供の研究グループとの協同などを通じて、SaaS の利用と提供において必要な仕組みの研究を行います。

進め方（案）：

- 1 回目：自己紹介、研究テーマに関する認識合わせ及び合意<6月>
- 2 回目：SaaS アプリケーションの調査と整理<7月>
- 3 回目：SaaS 利用効果に関する検討と整理<8月>
- 4 回目：SaaS 導入に関する検討と整理<9月>
- 5 回目：SaaS 導入に向けたアプリケーション選定、評価内容の整理<10月>
- 6 回目：SaaS 導入と評価<11月>
- 7 回目：SaaS 導入結果の評価と評価結果のまとめ<12月>
- 8 回目：最終報告書の構成検討と作成<1月>
- 9 回目：最終報告書の作成<2月>

募集対象者：

SaaS 導入を考えているまたは関心がある経営企画部門、システム部門、システム利用者の方を対象と致します。SaaS についての様々な視点から研究していただきたいと思えます。SaaS 方式を用いたコミュニケーションソフトウェア、教育ソフトウェアを実際に社内利用/適応することを予定している為、SaaS の導入を検討される方の参加を歓迎します。

以上

テーマ4： マネジメント・リーダー向け グループ研究

“ SaaS の提供をはじめよう ”

概要：

利用者にとって様々なメリットがある SaaS の市場は、年間平均成長率 20%弱の勢いで急速に拡大しています。一方、パッケージソフトや SI 市場は低成長が見込まれるため、IT ベンダーは、利益拡大に向け SaaS 提供について真剣に検討していく必要があります。

SaaS の提供には、ビジネスモデル（ターゲット、商品性、料金体系、販売チャネル等）の検討に加えて、サービス提供方式（インフラ構成、セキュリティ、マルチテナント方式、データ連携等）についてコスト・品質・スピードといった側面から最適な方法を検討していく必要があります。

本研究では、実際に SaaS 提供の試行や、SaaS 利用の研究グループとの協同などを通じて、SaaS の提供において必要な仕組みについて研究を行います。

進め方（案）：

- 1 回目：自己紹介、研究テーマに関する認識合わせ及び合意<6月>
- 2 回目：ビジネスモデルに関する検討と整理<7月>
- 3 回目：システム提供方式に関する検討と整理<8月>
- 4 回目：IaaS/PaaS 等の適用に関する検討と整理<9月>
- 5 回目：SaaS 試行に向けたアプリケーション選定、評価内容の整理<10月>
- 6 回目：SaaS 試行環境の構築と評価<11月>
- 7 回目：SaaS 試行結果の評価と評価結果のまとめ<12月>
- 8 回目：最終報告書の構成検討と作成<1月>
- 9 回目：最終報告書の作成<2月>

募集対象者：

SaaS 提供を考えているまたは関心がある企画担当者、アーキテクトの方を対象と致します。なお参加企業が保有する業務アプリケーション/パッケージソフトウェアの SaaS 化試行も予定しているため、Web アプリケーションを保持しており、SaaS 化試行を希望する方の参加を歓迎します（複数ある場合は、SaaS 化試行が難しい場合があります）。

以上

## 2010年度 IT&ソリューション 研究活動テーマご紹介

### テーマ5： マネジメント・リーダー向け グループ研究

**RFIDホットトレンド～製・配・販ですぐ使えるビジネスモデルを検証  
- RFIDを活用したカゴ車やパレット等の管理システムを実際に効果測定 -**

#### 概要：

さまざまな物流現場で使用される搬送用のカゴ車やパレットなどは流失や紛失が多く、管理する上でも人手がかかるため総数管理にとどまることが多い。そのため、流失や紛失、偏在に伴う購入費や劣化したカゴ車の使用やカゴ車不足によるバラ積みなどにより、多くの無駄なコストや物流品質の劣化を招いていました。

本研究会ではRFIDを活用したカゴ車やパレット等を管理するシステムを参加企業様で実証検証することで、カゴ車やパレットの不足や紛失・劣化の防止、品質が担保されたカゴ車での輸配送による物流品質の向上による効果測定および搭載される商品や製品と紐付けることで入出荷管理やトレーサビリティへの活用効果を検証します。

#### 進め方(案)：

- 1回目：進め方検討、各社の課題・物流の実態について共有
- 2回目：課題検討
- 3回目：RFIDカゴ台車管理システム導入現場見学
- 4回目：実証実験案検討
- 5回目：実証実験案作成
- 6回目：実証実験計画策定
- 7回目：実証実験
- 8回目：実証実験
- 9回目：実証実験結果まとめ
- 10回目：報告書作成

#### 募集対象者：

流通企業・物流企業におけるIT及びロジスティクス関連マネージャーの方

以上

テーマ6： リーダー・担当者向け グループ研究

Ruby によるアジャイルな開発の進め方

～ 価値のある短期開発の実現方法 ～

概要：

生産性の高い開発言語 Ruby とそのフレームワーク Ruby on Rails が開発者の間で広まっています。Ruby はアジャイルな開発手法に適した言語であり、より利用価値の高い Web システムを短期間で構築することを可能にします。本研究では、Web ベースの情報システムを Ruby によるアジャイル開発で構築するための実装方法、開発環境、技術的な制約、品質評価、開発管理について検証し、ウォーターフォール型の開発手法との違いを明らかにします。また、ビジネス面の課題を整理することで、実ビジネスへの適用を目指した研究を進めていければと思っております。

進め方(案)：

- 1 回目：活動テーマに関する認識合わせ & 研究の進め方の討議
- 2 回目：現状の一般的なシステム開発の問題点の整理
- 3 回目：Ruby と Ruby on Rails による実装とアーキテクチャの紹介
- 4 回目：アジャイル開発の進め方の紹介と討議
- 5 回目：アジャイル開発の管理と品質評価
- 6 回目：周辺技術(開発環境・連携ミドルウェアなど)の状況
- 7 回目：ビジネス課題と適用の対象領域
- 8 回目：アジャイルの利点について討議
- 9 回目：まとめ、報告書最終調整

募集対象者：

既存のウォーターフォール型の開発手法に限界や課題を感じている管理者と開発リーダー

以上

テーマ7： リーダー・担当者向け グループ研究

## クラウド・コンピューティングにおけるセキュリティ対策の考察

### 概要：

クラウド・コンピューティング（以下クラウドという）が脚光を浴びるなか、クラウドが備えるセキュリティへの関心が高まっており、3月31日に情報処理推進機構（IPA）が公開をした「2010年版 10大脅威」では第9位に位置付けられるほどになっている。

クラウド提供事業者は適切なセキュリティ対策を行ってはいないものの、利用者の漠然とした不安（データは何処にどのように保管されるか、マルチテナント環境で情報漏洩はないか、外部からの脅威に対抗できるか等）を払拭できていないのが実情であろう。

当グループでは、クラウドに関するセキュリティ対策の現状を踏まえつつ、特に利用者の視点からみて、より安全・安心して利用するためにクラウドに期待するセキュリティ対策について調査・研究を行う。

### 進め方（案）：

- 1回目：グループの活動方針の検討および調査計画の立案
- 2回目：調査範囲の特定（技術、物理、組織等におけるセキュリティ）
- 3回目：クラウド提供事業者の対応状況の確認および政府・業界動向の調査
- 4回目：無料クラウドサービス（トライアル）を利用したセキュリティ機能検証
- 5回目：検証結果の報告・共有
- 6回目：クラウドへの移行・利用を想定した仮想シナリオの検討
- 7回目：検討結果の報告・共有
- 8回目：報告書の目次、内容の検討
- 9回目：報告書作成

上記は現時点での想定であり、変更になる可能性があります。

### 募集対象者：

リーダー・担当者の方、歓迎いたします。

以上

テーマ8: リーダー・担当者向け グループ研究

Twitter のビジネス活用のあり方

概要:

Twitter(ツイッター)は、140文字に制限された「つぶやき(Tweet)」を投稿するミニブログである。2009年7月頃から日本でブームになり、勝間和代氏、堀江貴文氏などの著名人の参加もあり、ネット・TV・新聞・雑誌等で取り上げられるようになった。鳩山首相など政治家の利用も増え、ジャーナリズムも変化を始めている。企業では、ヤフー、ユニクロなどが積極的に活用を始めています。

Twitter をビジネスで活用するためには3つの側面を検討する必要があると考えております。

- (1) コミュニケーション...広告宣伝(情報発信)、情報収集、アイデア出し(双方向通信)
- (2) プラットフォーム...市場調査、人と人のつながり、API と bot の利活用
- (3) 安全・安心と継続性...情報漏洩・なりすまし対策、投稿する抵抗感の軽減

調査・検討を行ったのち、Twitter のビジネス活用モデルの仮説立案し、試行を行い、その結果を踏まえ実践に結び付けていければと思っております。

進め方(案):

- 1回目: Twitter とは? メンバの問題認識、対応状況の紹介、方向性・進め方の討議
- 2回目: コミュニケーションツールとしての Twitter についての調査・検討
- 3回目: プラットフォームとしての Twitter についての調査・検討
- 4回目: 安心して Twitter を使い続けるための調査・検討
- 5回目: Twitter のビジネス活用モデルの仮説立案・検討、評価指標の策定
- 6回目: 仮説の試行、評価データの分析
- 7回目: 試行結果の分析・考察、今後の継続性の検討
- 8回目: 報告書作成
- 9回目: グループ活動発表

募集対象者:

Twitter に興味のある方、Twitter を利用されている方、Twitter にビジネス活用の検討をされている方を募集します。

部署は、広報宣伝、調査研究、商品企画、市場調査、人材採用、情報システム、情報セキュリティ、受発注、在庫管理、顧客窓口などを担当されている方々。



テーマ9： リーダー・担当者向け グループ研究

Web マーケティングにおけるアジャイル開発の活用

～迅速にインターネット販売を始める方法の検討～

概要：

昨今、Web マーケティングが新たな顧客獲得の手段として注目を浴びています。インターネット・通信販売による売上げは、すでにコンビニや百貨店の売上を超えるとの統計もあり、ますます重要な販売チャネルとして成長する一方、Web サイト上では、競合が激しくなり、顧客の獲得・維持のために Web マーケティング手法の活用が求められてきています。

このような状況において、販売事業者の立場としては、インターネット販売サイトを構築するにあたり、どのような観点に注意して進めていくことが必要でしょうか。

本研究では、「Web マーケティング手法を活かしたインターネット販売を短期間で開始したい」という要求に対して、Web マーケティングの手法や技術を活用して、どのようにサイト構築していくか、事業を成功に導くか、を検討しながら、企画立ち上げから構築までのプロセスについての検討を行ないます。

単にシステムを構築するという視点から脱し、Web マーケティングのあり方を踏まえた上で、世の中の技術や環境をいかに活用していくかを検討していきたいと思えます。

進め方(案)：

- 1 回目：活動テーマに関する認識合わせ & 研究の進め方の討議
- 2 回目：販売事業者としての事業ゴール設定、販売目標と やるべきことの整理
- 3 回目：調査：さまざまな Web マーケティング施策の狙いと技術を知る
- 4 回目：体験：Web マーケティング支援ツールの体験
- 5 回目：調査：インターネット上のシステムとそれらを連携する技術を知る
- 6 回目：ゴール達成に向けた仮説立案。課題例「限られた期間で実現する方法は？」
- 7 回目：討議：ゴール達成に向けた材料の検討 (SaaS, PaaS, OSS 製品の活用など)
- 8 回目：討議：ゴール達成に向けたプロセスの検討 (企画～構築～運営～改善)
- 9 回目：報告書最終調整

募集対象者：

- インターネット販売チャネルの活用について興味のある方
- インターネット販売に関する企画を担当されている方
- インターネット販売に関する構築を担当されている方

テーマ10： リーダー・担当者向けグループ研究

スマートフォンのビジネス活用検討

～スマートフォンとICTで観光ビジネス～

概要：

近年、iPhoneの発売でスマートフォンに注目が集まっています。スマートフォンはこれまでの携帯電話ではできなかったような、高度なアプリケーションを動作させることができます。現在はゲームなどのエンターテインメント系で注目されていますが、今後はビジネスユースでの活用に注目が集まっていくものと思われます。本テーマではスマートフォンを利用したビジネスアプリケーションの可能性について考察を行います。

その中での一つのテーマとして観光を取り上げたいと思います。観光は国の政策が絡み、今後日本では数少ない成長分野と考えられています。今回はそのようなSPを使った新規ビジネスプランを構築したいと考えています

進め方(案)：

- 1回目：スマートフォンの現状についての調査
- 2回目：携帯電話とスマートフォンの相違点について研究
- 3回目：スマートフォンアプリケーションの分類
- 4回目：観光マーケットの現状調査
- 5回目：スマートフォンのビジネス活用事例研究
- 6回目：スマートフォン活用イメージの作成
- 7回目：スマートフォン活用ビジネスの考察
- 8回目：グループ研究に関する報告書作成
- 9回目：討議&まとめ

募集対象者：

情報システム企画部門の方、業務企画部門の方、この分野に興味をお持ちの方  
スマートフォンを使った観光サービスに興味を持っている方、マーケティング・新規事業に興味がある方、消費に敏感な女性など。若手歓迎。システム、営業など、職種は問いません。新しい分野を切り開きたいという意欲的な方を募集しております。

業界はこだわりませんが：インフラ系(交通・通信・電力)、小売・BtoC系、流通・物流系、旅行系、自動車系、ネットサービス系、携帯系、官公庁系などが今後のビジネスに繋がると考えています。

以上

テーマ11： リーダー・担当者向け グループ研究

Web システムにおける、高齢者・障害者への配慮  
「Web アクセシビリティ」のポイント

概要：

Web アクセシビリティとは、Web サイト利用者の年齢や身体的制約、利用環境等に関係なくコンテンツや機能を利用できること、およびその度合いを表すものです。自治体など公共性の高いWeb サイトでは、より高いレベルのアクセシビリティが当然のものとして求められています。

本研究では、デザイン工学や認知学に基づいた原理・原則を土台にして、Web システムのユーザインタフェースを設計・評価する際、どのようなアクセシビリティの考慮が必要となるかについて考察します。

進め方(案)：

- 1回目： Web システムアクセシビリティの現状についての調査
- 2回目：成功事例、失敗事例研究
- 3回目：アクセシビリティを左右する原則について考察
- 4回目：アクセシビリティの評価ポイントについて研究
- 5回目：アクセシビリティの評価ポイントについて研究
- 6回目：アクセシビリティを考慮した設計ポイントについて研究
- 7回目：アクセシビリティを考慮した設計ポイントについて研究
- 8回目：グループ研究に関する報告書作成
- 9回目：討議&まとめ

募集対象者：

情報システム企画部門の方、業務企画部門の方、この分野に興味をお持ちの方

以上

テーマ12： リーダー・担当者向け グループ研究

**業務の見える化とは？**

概要：

昨今雑誌、書籍、インターネット記事、セミナーなど、さまざまな媒体に「業務の見える化」というテーマが取り上げられています。

多くの人に関心を寄せている業務の見える化とは何か？そのキーワードが意味するところの目的、対象、ゴールは様々であると想定されます。本テーマでは、一般動向、メンバーの関心事なども交えて業務の見える化とは何か、何を研究テーマとして取り上げるべきか考えるところから活動を着手します。

業務の見える化に対する関心事の例

- ・ 各部署の業務の見える化により部署間のコミュニケーションを円滑にしたい
- ・ 経験豊かな社員の業務ノウハウを見える化したい
- ・ 業務改善を行うために役立つ業務の見える化を研究したい
- ・ 業務の見える化の手段、事例について調査・研究したい

進め方(案)：

- 1回目：(6月) 情報収集、研究テーマの方向性・進め方の討議
- 2回目：(7月) 情報収集、研究テーマの方向性・進め方の討議
- 3回目：(8月) テーマの絞込み
- 4回目：(9月) テーマの絞込み
- 5回目：(10月) テーマの検討
- 6回目：(11月) テーマの検討
- 7回目：(12月) まとめ
- 8回目：(1月) 報告書作成

募集対象者：

- ・ リーダーまたは担当者の方
- ・ 業務の見える化というテーマで社外交流を深めたい方
- ・ これから業務の見える化に取り組みたいと考えている方、取り組む予定の方

以上

テーマ13： リーダー・担当者向け グループ研究

仮想化とクラウドの効果的な利用展開

概要：

IT コスト削減の選択肢として、仮想化は、昨今急速に適用範囲が拡大しています。また、新たな利用形態としてクラウド・コンピューティングも注目されています。クラウドの利用は、IT 資産を所有しないためコスト削減に寄与することが期待される反面、インフラが隠蔽化されることにより、性能面、カスタマイズや連携、セキュリティ面での課題も残ります。一方、オンプレミス（自社運用）でそれらの改善を求めると結果的に機器や運用のコストが増加する危険性も考えられます。本研究では、クラウドを含めた仮想化技術を整理し、システムの役割や特性に応じた仮想化の費用対効果を検証し、クラウドとオンプレミスといった利用形態を選択できるガイドラインの策定を目指します。

進め方（案）：

- 1 回目：仮想化とクラウドの市場動向と検討範囲確認（6 月）
- 2 回目：様々な仮想化技術の適用範囲と効果の調査（7 月）
- 3 回目：クラウドの利用形態と効果の調査（8 月）
- 4 回目：仮想化とクラウド利用の課題整理（9 月）
- 5 回目：費用対効果の定量的な指標検討（10 月）
- 6 回目：活動報告書全体の流れと骨子確認（11 月）
- 7 回目：活動報告書作成（12 月）
- 8 回目：活動報告発表会用資料まとめ（1 月）

募集対象者：

以下のいずれかに該当する方。  
日夜サーバの運用管理に携わっている方。情報システム部門のリーダーの方。  
現在、自社内のシステムでのサーバ仮想化の適用、またはクラウドへの移行を検討している方。

以上

テーマ14：	リーダー・担当者向け グループ研究
<b>「ソフトウェアの品質向上」</b> ～ この最も暗い夜を抜けると明るい朝が来る ～	
<b>概要：</b> 近年、ITの社会への適用拡大は目覚ましいものがあり、技術・規模の両面で開発難易度が上がっています。その上、ソフトウェア品質の要求レベルも高くなり、ひとつの不具合が関係各社にとって重大な影響を及ぼすようになってきています。上流工程でのインスペクションやレビュー、下流工程でのテスト技術などといった基本的な考え方、技法は普及され始めていますが、それでもソフトウェアの品質は十分な水準に達していないようです。そこで本研究会ではメンバー全員で現状認識し、同じ最終目標を立て、このテーマについて議論していくために、 ・メンバーの経験や興味を共有し、 ・事例紹介や研究を通し、品質上の成功要因と失敗要因およびその解決策を議論し、 ・全員で選定した品質向上策を学びます。 これらを通してソフトウェア品質を向上させ、プロジェクトを成功させるためには何が必要かを開発者あるいは顧客の立場で考察していきます。	
<b>進め方（案）：</b> 1回目：各メンバーの問題意識、対応状況の紹介 2回目：品質向上のための技法 3回目：事例紹介～顧客と開発PM 4回目：品質目標の設定 5回目：品質向上方針の策定 6回目：方針の具体化 7回目：活動報告書の全体の流れと骨子確認 8回目：活動報告書の作成 9回目：討議&まとめ	
<b>募集対象者：</b> 現在あるいは今後システム開発やテストに携わる方 (開発責任者、PM、チームリーダー、開発者、テストマネージャー、テスト設計者等) この分野に興味をお持ちの方 <b>キーワード：</b> 品質管理、リスク管理、フロントローディング、テスト技法、Wモデル、開発プロセス、テストファースト	

テーマ15：	リーダー・担当者向け グループ研究
<b>プロジェクトを成功させるために</b> ～ 何がプロジェクトの成功と失敗を分けるのか ～	
<p>概要：</p> <p>システム開発/運用のプロジェクトは、品質、コスト、納期の計画達成が強く求められます。一方で、品質不良、予算オーバー、納期遅れ等が頻発し、最悪は本番稼動に至らないというケースも発生しています。また社会インフラと呼ばれるシステムは、その信頼性が社会と監督官庁の厳しい目にさらされています。</p> <p>本研究会では、</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ メンバーの抱える現実の問題や関心テーマを出し合って共有し、</li><li>・ 事例と知識体系の研究を通し成功要因と失敗要因を議論し、</li><li>・ メンバーの日々の業務に有効な形式知の形成を目指します。</li></ul> <p>プロジェクト成功の秘訣といった単純なノウハウ(いわゆる銀の弾丸)が存在するわけではなく、総合的な努力の積み重ねが必須であるからこそ、木だけではなく森の形や大きさを正しく押さえることが重要です。その上でメンバーの現実の課題にアプローチします。</p>	
<p>進め方(案)：</p> <p>ワークショップ形式で次の流れで進めて行きますが、会合回数是一例です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 初期(1~3回)：メンバーの問題意識、課題、関心テーマを共通テーマ研究テーマに収束させ、更にその研究テーマに対するアプローチ方法、事例、知識体系等を固めます。</li><li>・ 中期(4~11回)： 各種の研究材料を毎回各自分担して持ち寄り、メンバー間で徹底した議論を繰り返して行きます。最終的にグループとしての結論をまとめます。</li><li>・ 終期(12~14回)：活動報告書と発表用PPTを作成します。</li></ul>	
<p>募集対象者：</p> <p>現在あるいは今後システム開発/運用に携わる方(企画者、開発担当者、運用担当者、プロジェクトマネジャー、管理者など)、この分野に興味をお持ちの方</p> <p>キーワード：プロジェクトマネジメント、全体最適、PMBOK、CMMI、プロジェクトマネジメント方法</p>	

以上

テーマ16： リーダー・担当者向け グループ研究

残業ゼロへの仕事術の検討

概要：

「ワークライフバランス」という言葉が聞かれるようになって久しい。

「ワークライフバランス」とはプロの職業人として自らの責任を果し、その上で個人のプライベートを大切にするという、仕事と生活の調和を目指した考え方である。

しかし、責任を果しつつ、個人のプライベートを大切にしようとしても、実体として定時になって帰宅するという職場がどれだけあるか。特にシステム開発では常に納期に追われており、「ワークライフバランスの推進」という掛け声や残業時間の目標値は聞こえてきても、現実には相変わらず深夜に及ぶ仕事に追われているのが実体ではないだろうか。

そうした状況を少しでも改善していくためには、仕事の量を質に変えていくことが必要であろう。どうすれば同じだけの仕事を、品質を保ちながら短い時間でやりきるか、そのことを考えて、実践していくことが必要である。

本研究会では、その為の方法を各自の実体験と実感をもとに、ワークライフバランスを推進し実現している各社の事例や、関連する書籍等を通して、「仕事の方法」=仕事術を研究していく。そこから発展し、これからの時代の働き方を議論していきたい。

参考図書：「残業ゼロの仕事術」吉越浩一郎

進め方（案）

- 1回目：現状の課題と今後の仕事のあり方についての議論（6月）
- 2回目：あるべき姿の具体的なイメージと、現状の課題と仮説の設定（7月）
- 3回目：取り組み事例の調査（8月）
- 4回目：具体的な取り組み方法のプランニング（9月）
- 5回目：プランニングの試行または提言（10月）
- 6回目：プランニングの試行または提言（11月）
- 7回目：試行内容の整理・評価（12月）
- 8回目：グループ研究報告書作成（1月）

募集対象者：

- ・仕事のやり方を変えていきたい、と考えている方
- ・ワークライフバランスに関して興味をもっている方
- ・知的生産性、ナレッジシェアリングに興味がある方

職種、事前知識の有無は問いません。

以上



テーマ17： 若手IT技術者向け グループ研究
<p style="text-align: center;"><b>IT技術者の仕事</b> ～企業人4年～5年生に向け、役に立つテーマ～</p>
<p>概要：</p> <p>「IT技術者の仕事」は入社4年から6年程度の若手IT技術者を対象に、毎年参加者の興味のあるテーマを取り上げ研究活動を行ってきました。今年で4年目になりますが、1年目はIT技術者として技術習得のための「キャリアパスの研究」を行い、2年目は職業人としてグローバルな視点から世界のIT業界の違いを研究しました。そして3K問題など評判の悪いこの業界のイメージを改善するため「3KをKIBOU（希望）に変えるための方策」を検討しました。そして去年は環境問題を取り上げ、グリーンITについて研究しました。そして私たちの提案は「Start Small Green IT!」でした。マイケル・ジャクソンの“ This is IT! ”(さあ、始めよう!)を合言葉にプレゼンテーションを行いました。このように、若手IT技術者が仕事に打ち込むための方策を研究テーマとして取り上げて来たといえます。今年ではコンプライアンス時代に「IT技術者の情報倫理」や充実した人生を過ごすための「IT技術者のライフスタイル」について研究するのはどうでしょう。この研究会は若手IT技術者を対象に参加者の意向を重視して進めてゆきますので、是非とも積極的に研究活動にご参加ください。</p> <p>参加者に特に前提知識は必要としませんが、研究活動を通じて将来の糧となる知識や経験を獲得していただくことを狙いとしています。</p>
<p>進め方(案)：</p> <p>1回目：ガイダンス</p> <p>2～3回目：「IT技術者の情報倫理」または「IT技術者のライフスタイル」などテーマ についての自由討議</p> <p>4～5回目：研究テーマの決定とマイルストーンの作成</p> <p>6～7回目：研究活動</p> <p>8～9回目：研究活動。(研究の進捗により適宜研究活動の回数を増減する)</p> <p>10回目：報告書のまとめ</p> <p>* 2回目と8回目に伊豆エクゼクティブセンターでの一泊合宿を予定しています (参加者の方は有料となります)</p>
<p>募集対象者：</p> <p>情報システム部門の4～6年生。女性の方も歓迎です。</p>

テーマ18： リーダー・担当者向け グループ研究

クラウド時代のワークスタイル、働きやすさの向上

概要：

クラウドの時代と言われ、オフィスの様子がまた様変わりしそうです。現在の常識となっている日常作業の多くが不要になり、コミュニケーションの方法も変化するでしょう。それに伴い、私たちの職場、仕事の仕方、組織のかたちはどのように変わるのでしょうか。ワークスタイルの観点でクラウドの長所短所を学び、多様なニーズを持った人々が働きやすいと感じる働き方を追求します。

進め方(案)

- 1回目：テーマ趣旨説明、メンバー自己紹介
- 2回目：疑問点・問題点の発掘(テーマ候補)
- 3回目：希望テーマ(方向性)・活動の決定と討論。
- 4-6回目：討論または勉強会
- 7回目：情報収集と分析
- 8回目：報告書作成(分担とマージ、レビュー)

募集対象者：

- ・ 職位、業種、男女を問いません。
- ・ 技術面よりも働く環境面から「クラウド」に興味のある方。
- ・ 「ワークスタイル変革」、「働き方の見直し」、「ワークライフバランス」に興味のある方。
- ・ 新しい働き方をしたいと思う方

以上

テーマ19： マネジメント向け グループ研究

## ダイレクトマーケティングにおける顧客戦略について

- 顧客情報の活用実態と課題 -

### 概要：

インターネット、Web2.0等のIT技術の発達とメーカー等の新規参入で、着実に市場拡大しているBtoCビジネス（通信販売、ネット通販、店舗小売業他）で今、店舗、ネット/携帯、カタログ等の販売チャネルとを連動させた顧客戦略が重要になってきています。こうした環境を前提にBtoCビジネスにおける顧客情報の戦略的な活用について、先進企業での事例紹介、参加企業の「顧客情報の活用実態と課題」の発表、検討および情報交換等を通して、BtoCビジネスにおける顧客戦略に役に立つ顧客管理指標等を研究することを目的にします。

### 進め方：(案)

- 1回目：研究目的及び進め方検討、ダイレクトマーケティング市場動向について
- 2回目：先進企業の事例紹介
- 3回目：第一回研究発表会
- 4回目：第二回研究発表会
- 5回目：第三回研究発表会
- 6回目：顧客情報の活用方法、顧客管理指標等の検討
- 7回目：研究内容整理&まとめ
- 8回目：報告書作成

### 募集対象者：

BtoCビジネス（通信販売、ネット通販、店舗小売業他）の企画部門、顧客情報の活用・分析部門のマネージャーの方

以上